



「境界知能」の子ども困っているサインに気づく

2023.9.29 発行の STEP では、はっきりとした診断はないものの、困り感を抱えがちな「グレーゾーン」の子どもについてお伝えしました。今回は、「知的障がいグレーゾーン」とも呼ばれる「境界知能」の子どもが何に困っているのかに気づき、困っている状況やその背景を理解すること、また、どのように支援し、その支援をどのようにつないでいくとよいのかについて考えてみましょう。

レオ先生



Aくんのごことで悩んでいます。学習の定着に時間がかかり、授業中はぼんやりしていることが多いです。音読はたどたどしさがありませんが、読めないことはありません。算数は四則計算は得意ですが、文章題になると苦手です…。3年生の頃は何とか学習についていけましたが、4年生になってから学習がつかなくなったようです。

普段はおとなしい子ですが、時々トラブルが目立つようになりました。最近、友達とうまくいけなくなったことをきっかけに登校を渋る日が出てきました。

境界知能の特性 IQ70以上85未満

・学習の困難

教科書の内容が理解できない、漢字が覚えられない
桁数が大きくなると計算できない、テストで点数がとれない 等

・社会面の困難

ルールの理解が難しい、相手の言葉の意味をつかめない
自分が伝えたいことをうまく表現できない 等

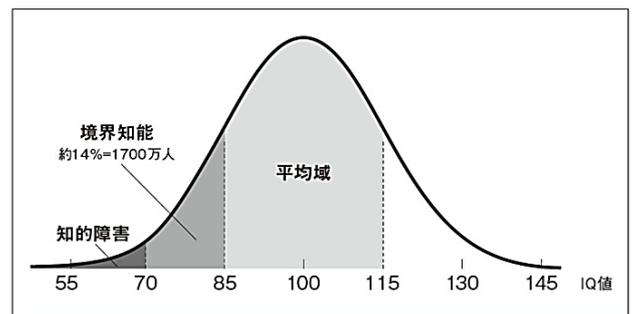
・行動面の困難

身だしなみを整えることが苦手、整理整頓が苦手
手先が不器用、お金の計算が難しい 等

こちらを見てください。



宮口幸治著「境界知能の人が見ている世界」より抜粋



IQ分布

「知的障がい(知的発達症)」の目安となる基準は3つあります。

- ① 知的機能に障がいがあること
- ② その障がい18歳までに起きていること
- ③ 日常生活に支障が生じていること

学習面や社会面、行動面の困難さが見られる子どもたちの中には、IQ70未満の知的障がい(知的発達症)には該当しないものの、IQ70以上85未満で何らかの支援が必要とされる「境界知能」に位置付けられる子どもたちがいます。

上記の図からも分かるように、35人の学級であれば、5人程度いるかもしれません。

「境界知能」の子どもたちの多くは、見る力や聞く力、見えないものを想像する力、といった認知機能に弱さを抱えていることが多いです。認知機能が弱いと生活に困難が生じやすくなります。



Aくんが困っている状況の背景には、もしかしたら「境界知能」という特性があるかもしれないということですね。



Aくんのように、学習の定着に時間がかかる、相手の気持ちが想像できずにトラブルになるといった相談から発達検査を実施してみると、「境界知能」に気づくことがあります。しかしながら、「境界知能」であることに気づかれずに、見過ごされていることが少なくありません。

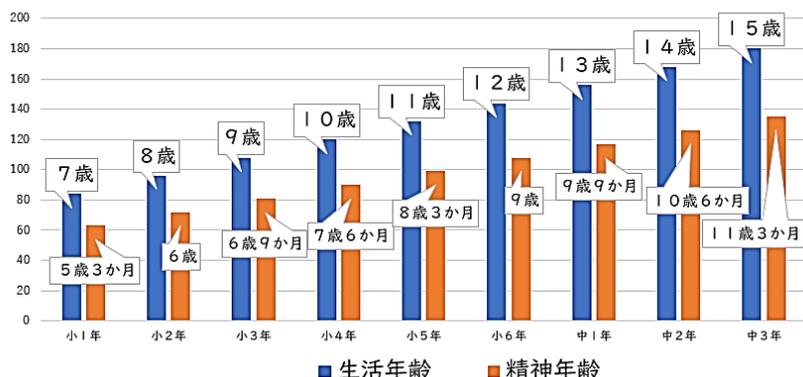
教師や保護者だけでなく、本人自身も困っていることに気づいていない場合があります。学習だけでなく日常生活でも困っているけれど、「話すのが苦手」「できないことを知られるのが恥ずかしい」「助けを求めることが嫌だ」等の理由で、本人自身が口に出していない場合もあるようです。





Aくんのことは気にかけていましたが、登校を渋るようになったことを保護者から聞くまでは、本人が困っていたことには気がついていませんでした…。特別な支援が必要ということですね。

IQ75の生活年齢と精神年齢の推移



たとえば、IQ75の10歳児であれば、精神年齢は7歳6か月程度と考えられます。それは、小学校4年生の中に、1年生が混じっているようなイメージです。

本人の努力不足だと思われたり、困っていることに気づかれにくかったりします。子どもの困っているサイン(キレやすい、あきらめやすい、忘れ物が多い等)を見逃さず、子どもの困っている状況やその背景を一つずつ理解していくことが必要です。



Aくんが困っている背景を理解するところから始めてみます。また、Aくんの話をじっくりと聞いて、気持ちに寄り添ってみます。



「〇年生なんだからこれぐらいできるはず。」「がんばればできる。」という考えはNGです。「境界知能」の子どもは、学習面や社会面、行動面において、学級(集団)の中での配慮や個別の指導・支援が必要です。たとえば、

- ◎学習面:できた・やれたという場面を作る。必要な時に使える支援を準備しておく。自分に合った学び方を見つける。等
- ◎社会面:いじりやいじめを回避する。本人の分かりやすい言葉で言い換える。理解したか確認する。等
- ◎行動面:視覚支援で見通しをもたせる。何に困っているかを聞く。ヘルプの出し方を教える。等

困り感は一人一人違います。学習面に限らず、普段の生活の中でその子の困っているサインに気づき、学級の中での配慮や個別の指導・支援につなげましょう。また、進級に伴い担任が変わる際には、これまでの適切な支援や配慮を途切れさせないようにしましょう。小学校から中学校といった学校が変わる際の引継ぎは、特に重要です。口頭ではなく、個別の教育支援計画・指導計画に反映させて引継ぐと安心ですね。



切れ目ない支援の引継ぎ(移行支援)は、学習意欲の低下や二次的な困難(問題)を予防することにつながるかもしれませんね。

Aくんとのかかわりの中で行っていた学級の中でのちょっとした配慮や個別のかかわりを整理したいと思います。

年度末は、保護者会はありませんが、個別に時間を設けて、保護者と話し合いをしたいと思います。また、教育相談を受け、Aくんにとっての強みを見つけて活かすことができないかのヒントにしたいと思います。

さらに学び続ける教師、レオ先生であった。

子育てファイルふくいっ子簡易版

教育相談対象の児童生徒
診断のある児童生徒
学校として引継ぎが必要な児童生徒

※「引き継ぎ事項」の部分を活用

個別の教育支援計画・指導計画シート		学校用	
学年	児童生徒	学校	学年
目標			
実施内容			
評価			
備考			
引き継ぎ事項			

【参考資料】 ●宮口幸治著 境界知能の子どもたち「IQ70以上85未満の生きづらさ」、境界知能の人が見ている世界、マンガで分かる境界知能とグレーゾーンの子供たち1〜5

【令和5年度第5回の開催日】 2月21日(水) 16:15~17:15(フリートーク)



第5回 R-cafe テーマ

「教室の中のちょっと気になる子どもたち」「移行支援」

- ★ 学校名_お名前 (〇〇小_△△) で参加してください。
- ★ 途中入室・退室 OK です。飲み物準備で、どなたでもお気軽にご参加ください。